



■ 子どもの学習習慣について語り合いました

8月21日(水)、大崎小学校で「学びの組織活性化プロジェクト」の校内研修会が開催されました。これは、県教育委員会指定の実践研究の一環で、今回は、「学力向上のための取組」「保護者や地域と連携した家庭学習習慣」をテーマに、県や町の教育委員会の支援を受け、研修を進めました。



【子どもたちのために熱心な協議が行われました】

特に、家庭学習習慣の研修では、保護者や学校運営協議会委員が職員と共に協議をしました。「子どもたちの夢実現の可能性を広げるためには、学習習慣は重要。そして、大人たちのコミュニケーションも必要。」

「家庭学習習慣は、宿題をすることだけではない。宿題が終わったら読書などで机に向かう習慣を育てることが大切。」「地域行事や学校参観などを通じて、地域の住民子どもたちと関わりをもつていただければ、子どもの成長につながる。」ことなどが話されました。

学校職員と保護者、地域の方々が一緒になって子どもたちのことについて向き合う貴重な研修となりました。

まぶの窓おしえの庭

『地域の教育力を高めよう』

No.57 大崎町退職校長会 桑原 勉

日々は巡り、歴史は流れます。時に当たり、教育の道程は大変至難な業であり、そこには近道もないように思います。また、それは地味で努力の息の長い道でもあります。

私が言うまでもなく本町でも「学校教育」や「家庭教育」の充実のために、日夜模索が続けられているところですが、「郷土教育」の充実という面にも、より目を向けてはどうでしょうか。

周知の通り、幕末から明治維新にかけて薩摩から西郷隆盛、大久保利通を始め数々の偉人が輩出しました。また、前後して垂水でも地域の考え方として私財を投げ打って教育に当たった結果、軍艦マーチを作曲した瀬戸口藤吉を始め、多くの偉才が生まれたことは伺い知るところです。

これらの例は、「郷中教育」や「教育観の一致」が功を奏したわけですが、今では時代背景も大きく様変わりし、「個人の尊厳」「価値観の相違」「多様性」「地域集落への加入組織率低下」等、地域が一体化するには困難を伴います。

でも、「蒔かぬ種は生えぬ」「案ずるより産むが易し」何としてでも地域の大人達の結集力で、地域の子どもたちの無限の資質を伸ばしてやる責務があると思います。そのためには、地域における子どもたちの居場所づくりのための施設を設置することも必要となるのではないかと考えます。放課後、子どもたちはそこを根城に集まり、「遊び」「鍛え」「生産」「学習」の活動を展開し、大人達はそれを見守ると共に適切な指導助言をして関わり、普段は声かけ運動をしていくのであれば、地域の教育的土壌は肥えるのではないかと思います。

「声かけで 郷の教育 きわやかに」